

仕事の大変さを実感！！ 山中生が町内で職場体験

6月28日、山田中学校（佐々木慶信校長）の2年生94人が職場体験学習を行いました。この活動は多くのことを学び将来の仕事に活かせるようにという目的で毎年行っているものです。山中生は、町内のさまざまな職場で体験を行いました。その中のカットインみなとは田代彩羽さんと島山瑞姫さんが訪れ、実際にカットをしたりパーマをしたりしました。田代さんは「作業がたくさんあり、覚えるのが大変でした」と働くことの大変さを実感していました。

この記事と写真は、役場に職場体験で訪れた中村佳愛君と鈴木優人君が作成・撮影しました。



大浦小児童が社会科見学 町の復興状況を真剣に学ぶ

7月5日、大浦小学校（佐藤あい子校長）の2・3・4年生7人が、役場を訪れ社会科見学を行いました。屋上から町並みを見ながら、役場職員が復興状況の説明をすると、児童たちは真剣にメモを取りながら見学。また、見学中にJアラートの訓練放送が鳴ると、先生の指示に従いしっかりと体を丸め、地震に備えていました。見学を終えた児童たちは「1年前は土しか無かったのに、今は家がいっぱい建っていておどろいた」「復興について教えてくれてありがとう」などと感想を話していました。

鯨と海の科学館 1周年記念 くじら館が深海の世界へ

7月15日、鯨と海の科学館が再開館後1周年を迎えました。同日、1周年の記念イベントの特別ゲストとして、しんかい6500の乗組員「チームくじら号」の皆さんが来館。佐藤孝子船長が自作した深海にまつわる絵本の読み聞かせのほか、深海にすむ生物やしんかい6500に関するクイズなどが出題され、参加者は楽しみながら学びを深めていました。開館後、6月末で入館者2万人を達成した同館。湊敏館長はあいさつの中で「これからも地域に愛される町のシンボルとして頑張りたい」と、力を込めました。



横浜F・マリノスサッカー教室 ボールとおしてふれあい

6月23日から24日にかけて、山田町民総合運動公園ラグビー・サッカー場で横浜F・マリノスのスタッフの皆さんによる「ふれあいサッカー教室」が行われました。これは、震災後から継続して行われているもので、23日は中高生、24日は小学生が対象でした。24日には、元日本代表の波戸康広さんが訪れ指導。教室では、チームメイトとの声の掛け合いの重要性やパスの出し方などの指導が行われ、参加した子どもたちは、学びそしてマリノスの皆さんとボールをとおしてふれあっていました。



町のわだい

今月の題字 柴田 ^{のりたけ}憲武君 (山田北小2年)



24時間テレビ復興支援舟艇器材 テレビ岩手から町に贈呈

7月14日、山田町B&G海洋センター艇庫開きと24時間テレビ復興支援舟艇器材贈呈式が行われました。贈呈式では、池田学氏（㈱テレビ岩手取締役経営企画局長）より佐藤信逸町長へSUP（スタンドアップパドルボード）のパドルが手渡されました。今回贈呈されたのは、カヌーやSUPなど計31艇。その後、子どもたちによる贈呈されたカヌーなどの試乗会が行われました。子どもたちは、海洋センターのインストラクターの指導の下、マリンスポーツを満喫。鎌田芹さん（山田南小4年）は「カヌーは難しかったけど楽しかったです」と笑顔を見せました。



山田のいちび開催 さまざまな催し物で賑わう

7月8日、新生やまだ商店街で山田のいちびが開催されました。オープニングでは、織笠保育園の園児12名が八木節などを披露。会場では、山田高校の生徒や町内事業者などがさまざまな店を出店し、多くの来場者で賑わいました。また、全長30メートルの大流しそうめんも盛況。子どもたちは、流れてくるそうめんを上手にキャッチしていました。篠澤妃芽乃さん（山田北小5年）は、「流しそうめんは楽しくておいしい」と笑顔を見せました。

ことしのいちびは2回開催。次回は8月19日に開催されます。

